

平成 29 年度
第 1 回 高知市地域高齢者支援センター運営協議会
議 事 録

日時	平成 29 年 7 月 3 日（月） 19:00～20:45	
出席者	協議会委員	伊与木委員，中島委員，森下委員，山村委員，佐藤委員，神明委員，高橋委員，池永委員，川村委員
	健康福祉部	村岡部長，堀川保健所長，田中副部長，中村福祉事務所長
	高齢者支援課	田口課長，石塚介護予防支援担当副参事，三好課長補佐，前田東部センター長，北村西部センター長，今西南部センター長，福田春野センター長，神尾北部センター長，眞明高齢者福祉担当係長，小川，安田，間，中越
内容	<p>協議事項</p> <p>平成 28 年度高知市地域高齢者支援センター事業報告及び平成 29 年度高知市地域高齢者支援センター事業計画について</p> <p>【意見・質疑】</p> <hr/> <p>（事務局） 事務局説明（省略） 平成 28 年度高知市地域高齢者支援センター事業報告</p> <p>（佐藤委員） 活動についてそうやるなと思ってたことが，やはり事細かに書いてくれてるのでよく分かりますけど，移り変わりといいますかねこれは前年度ですよ 1 年分の。この中でいま重点的にやってきていることと何か続けてやってきたことと色々あると思うんですけど，やはりそのあの例えば集中支援チームを作ってそれをどうこうしたというようなことは目新しいというかそうゆうので分かりやすいですね。だけど何年か前からもう 2～3 年前になるんですか？できている認知症カフェはその中の活動の変化ってゆうのが分かりにくい。いくつ作りましたゆうことであ，そうなんか 18 もできたのかってゆうそうゆう感動は 1 つあるんですね。この前来たときはまだ 10 ぐらいやったと思います。努力なさっているということはよく分かるんですけどその何年か 2 年 3 年と移り変わってきてるその移り変わりが分かりにくいというか作ったけれど育てていくそうゆうことにこの支援センターがどれぐらい関わっておいでるのが分かりにくいです。支援します言う言葉はいっぱい出てくるんですね。だけどあたしとこも作ってるんですけど丸 1 年なるけど支援されているというそこはね分かりにくいんですよ。あの作ったとかいっぱいおいでるんですわ。ばーっとおいでるのね。入れへんぐらいおいでるの。潮が干いたように来なくなっちゃってゆうかね。多分次のどっかができていったそれは分かりませんがやっぱり支援するという事は決して華々しいことじゃありませんのでこの支援センターがどういう支援をなさっているのかいうのがあたしには分かりにくい。</p>	

(事務局)

南部ですが、昨年新たに認知症カフェ「さくらカフェ」っていうところが南部で立ち上がったんですけれども、立ち上げの経過として、元々ご家族に認知症の方がいらっしゃる方が色々そういった介護の手を入れることによって家族のその高齢者の状態がかなり改善、安定したとそういう方が他の地域の方にも認知症について広く知っていただきたいという思いから、ぜひ認知症カフェのほうをやりませんか？という声掛けにも応えていただきました。そちらを立ち上げにあたっては、ほんとに個人の方ですのでそれをやるにあたっては一応実行委員会の形で南部のセンターの職員、それから出張所の職員、あとは近隣の居宅支援事業所の方、それと市社協さんのほうにも加わっていただきまして、月に1回催しをしておりますけれども最初のうち色々催しをしてみるといってもどんなことをしたらいいかわからないなかで、地域の方で草履作りに長けていらっしゃるご高齢の方がおいでたのでその方にもご協力いただいて、皆で草履作りをやったりとかカルタをやったりとか、そういった月に1回やる内容については今のところ実行委員のほうでいろんなメニューといえますか、そういったものを考えて運営をしております。去年の11月に立ち上がりしましたが毎月今のところだいたい25~26名の参加があつてかなりやってる内容とかも皆さん興味を持っていただいているかと思っておりますけれどもずっと比較的安定した人数で運営ができております。それ以前にあるところにつきましては南部が今回民間のところであるというのは初めてですので私どものほうからは以上の報告になります。

(神明委員)

わたしは西部地区で「えいとカフェ」の会場立ち上がりの時の始めのうちの1名として関わってきたんです。で、現在ですねやっぱり認知症カフェっていう名称と報告にもあつたんですけれどもそういった名称でなかなか利用しづらいとかいったことがこれが全国的な課題になっていて西部の方では「えいとカフェ」っていうふうに付けています。で佐藤さんのところも「オレンジカフェ」ということですよね。

認知症カフェには必ず専門家がいないといけない。専門家がいなければ保健師とかケアマネージャーですとかそういった支援があつての認知症カフェということ。オランダが発祥の地なんですけれども、そういった専門家がいなくて地域で地域の住民が立ち上げるとなるとそれはもうサロンです。それは認知症カフェとサロンのさび分けはそこであるんだと思うんですよね。

西部の方では保健師さんが各センターに多分認知症をサポートする保健師という人がおられると思うので数が多くなってきたのでとても回るのが大変だと思うんですけれどもそういった動きも専門家、高齢者センターの職員がしているところもあると思います。

(佐藤委員)

ありがとうございました。専門家であろうとなかろうと自分の地域にできている認知症カフェであればいっぺんぐらい覗いてみるとかねそういうような動きが欲しいんですよね。それと私とか1つの組織を持ってるから人数入れることできるんですよ。すぐ30人40人できます。だけどそうでないところが寄り集まって作っているところがあるわけですね。そのときはそれを非常に評価したのにやっぱりそこが非常に悔やんでおいでる。本日も3人でした。みたいなことをね言われると、どこがどうやって支援

していくんやろかと思ってやっぱり心配します。その専門性があるない以前の問題を感じるんですよ。

(伊与木委員)

テーマとして介護予防と総合事業、地域ケア会議のことが新しい業務となっているのですが、総合事業についてもまだまだ受け入れにくいところがあるという反応です。そのあたりは来年度の計画でどのようになっているのか。地域ケア会議は段々参加されてきているということですが、一度は参加してみないとわからないと思うが、そういった参加者を広げていくということはできると思うが、そのあたりのあり方はどのように考えているか。

(事務局)

地域ケア会議については、平成 28 年度から専門職の方を参加していただくようにしたりして充実しているところです。個人個別の課題が中心だったのがだんだん地域課題にも展開してきたりとか、正直言いますと認知症初期集中支援チーム地域ケア会議あと医療介護連携だとか国からはいろんな事業が下りてくるんですけども、人員がやっぱり限られているもので総合事業の開始もそうなんですけども結局やはり始めできる範囲から始めてですよねそれでだんだんだんだんやっぱり実力をつけていったら発展してくるといったやり方をですね。どの事業でもやっぱりそういう形となってしまってるので、私がやっぱり総合事業についてもまだ 140 名程度の利用ですけども今後認定が一回りしてまたいろいろと新規の方に対してもアプローチしていけば今後もまた増えていくような形を取れると思います。ちょっと人員的なところでやっぱりいろんなことが一度に下りてきているというところで少しずつという形になっていると思います。

(事務局)

事務局説明（省略）

平成 29 年度高知市地域高齢者支援センター事業計画

(神明委員)

中越さんから報告していただいた 11 ページにつながるんですけども、相談件数・センターの相談件数のケアマネの苦情が 0.6%なので、一定数あるのではないかなと思うんですが。それで西部地区の自立を目指すケアマネジメントの実施、居宅のプラン点検とあるんですけども、これはあの西部独自で今後やっていかれるのかどうかをお聞きしたいです。

(事務局)

これは全市で行うプラン点検のことで独自のものではありません。居宅のプラン点検の他にですね、センター内の予後のプランの作成でインフォーマルサービス入れるとかの工夫はしていきたいと思っております。

(神明委員)

参考までに答えていただける範囲でいいんですけども 0.6%今までは多分介護保

険課の方にケアマネジメントの苦情というのはほぼいってたと思うんですけど、最近高齢者支援センターの方にこういった苦情が予防にしる、介護にしる集まってきているのかどうかをお聞きしたいです。

(事務局)

ケアマネジャーの苦情は確かあの例年 0 ではなくって、やはり同じぐらいの割合で出てきております。特に昨年度増えてきたということではないというふうに理解をしております。

(佐藤委員)

この前の市の保健福祉計画の中でね出てきたんですけど、いま新たな、元々あったんかもわかりませんが、今見つかっているのが虐待の中でも食事を摂ってないというその数字が非常に増えてきたという強い言葉があったんですね。だけどそれに対してじゃあどこで誰がどうするかということにはなかったわけで、今のこれからのその活動計画のなかでここかなと思ってお聞きするんですが、その数字っていうかその増えてきたという数字はそのどっから出てきたんか私らわかりませんので、どういうところから出てきているのか、それに出張所なんかは関わっていないのかいるのか、それはわかんないですよ。それをちょっとお聞きしたいんですけど。

(事務局)

ネグレクトというかその食事を摂らせないっていうのが増えたっていうことでしょうか。

(佐藤委員)

摂らさないではなくて食べない人が増えてきたと食事を摂ってない人が増えてきたと。

(事務局)

高齢者保健福祉計画の中では配食の数は伸びているということの話だったと思うのですが。

(佐藤委員)

配食やったですか？

(事務局)

配食サービスが結局伸びている。それは 1 事業所辞めて 1 事業所が始まったけども、その始まった事業所のところが色々元から独自にやっていた方を配食サービスに 1 回変わったりしたという話だと思うんですけども。

(佐藤委員)

あれは配食サービスが増えているということですか？

(事務局)

そうです。

(佐藤委員)

食べれていない人がいないわけじゃない？あたしはそう思ってなかったんですよ。そういうことも含めて全部で食べることが消えていっているというのか。

(事務局)

食のことに關してはこの前の推進協議で色々とお話は伺っています。食べれていないっていうことの数が取れているっていうことではなくて、配食の数が結局いろんな事情で伸びているということでそういうお話だった記憶はあります。

(佐藤委員)

そうなんですか。わかりました。

(川村委員)

2つ質問があります。

1つは地域ケア会議についてですけど、中越さんがおっしゃった今年度は地域課題を見つけてそれに対して取り組むというふうなことでしたけど各支援センターのお話、事業計画を伺いましたら10回行って困難事例に取り組むとかっていう報告とかもあったので、それは困難事例に取り組むことっていうのは効果的なんでしょうか？ということなんです。というのも、こちらの書いている文章にも障害者の方が精神疾患の方がご家族にいたり、それから困難事例といったらご本人よりもご家族にみなさん困難事例を感じてるところがあるんじゃないかと思って、去年28年度に困難事例に取り組んだら29年度は地域課題に向けてやったほうが効果的なのかな？というふうに思いました。困難事例は実際今まで28年度もやって解決はしますが…というところを質問したいです。もちろん無駄じゃないとももちろん思います。特に大事だとは思いますがなかなか難しいのかな？と思ってそうされると自立を目指す研修で自立につながった好事例っていうんですか？好事例を取り入れるっていうのがありましたけど、そういったこうやったら上手くいくっていうのを前向きに話し合うのがいいんじゃないかなというふうに印象としては思ったんですけどそこからはいかがでしょうか？

(事務局)

全体の地域ケア会議のご説明を先に説明させていただきたいと思います。昨年度困難と感じる事例や、あとは要支援の方、少しお元気になりそうな方の事例を取り混ぜて地域ケア会議で挙げてきております。そのなかで色々センターとも協議をいたしまして、今年度の地域ケア会議において定例で行う10回の分につきましては要支援の方を中心としました、少しお元気にどうやったらなれるかというところを中心にして地域ケア会議を各専門職種の方に入っていていただいて検討していきたいと思っています。そのためのいろんな私たちの意識であったり、不足するサービスや連携の不足点等、地域課題と思われることを挙げていながら、また地域課題ということで少し明確化をしていきたいというのが1つ整理をさせていただいた今年度の取り組みとなっています。昨年度のなかで少し困難を感じている事例については地域ケア会議で挙げ

ておりますのでその状況についてはセンターからご説明させていただきたいと思っております。

(事務局)

南部です。地域ケア会議を南部でも昨年は主にだいたい自立につながるような対処法などの検討をやってきましたんですけれどもやはり地域の中で、この世帯についてどのように対応していったらいいか、地域住民の方も困っているようなケースがありますのでそういったときには、随時に困難事例という形でいろいろ関係機関の方にもお集まりいただいてどのような形でアプローチしていくかというふうな検討を重ねてきました。それで役割分担といいますか、来られたなかでこの方にはこういった部分をやっていただく、次にこういったところが対応するというふうな整理もできたらいいと思いますので完全に解決しているのはなかなか出来てないケースもありますけれども、実際やった参加者のなかでどのような対応していったらいいか考えるなかで地域の資源の確認なんかもできていい形になったんじゃないかなと思います。今年度南部でも一応挙げさせていただいたのが10回実施する中では、そのエリアの中から自立につながるようなケースとさせていただいて、随時そういうことで先ほど申し上げたような困難事例についても検討を別途進めていこうかなと思っております。

(山村委員)

各地区ですすねその認知症を理解するために小学校・中学校・高校でやられてる、高校生があるみたいなんですけれども今見てたら単発的にあちこちの学校でやってるような状況ではないかなと思います。

そうすると今後10年20年後に対して認知症の理解を持ってもらって今の若い子たちがある程度の年代になったときにある程度認識を持ってもらったら、今後の認知症に関しても考え方も違うと思いますけど、単発的にやってるとあまり意味がないのではないかとやるんやったら全学校でやらないと意味がないんじゃないかなと思いますけどその点はどうですかね？

(事務局)

学校単位となるとすねやはりいろいろと教育委員会などいろんな関係があると思います。やはりあの校長先生とかですすね個別に結構お付き合いがあるところなんかでやろうというところが結構多いと思います。それを全体となると校長会とかですすね、いろんなところで話しするとなるとなかなか難しいところで今後1つのですすね。これからということも大切になってくると思いますので、そこら辺にももう少し足を踏み入れてできればいいと思います。ありがとうございました。

(伊与木委員)

全国的に見てやってるところはあるみたいですね。

(森下委員)

自立を支援するケアマネジメントの方で、例えば要支援の人たちも居宅への委託が半分ぐらいのところがあるなかで、その居宅の人たちをどう含んでいくのかという

ところでお考えがありましたら教えていただければと思います。

(事務局)

日々の業務に関しましてはセンターが中心となって協議会のみなさんと連携を図っているところです。昨年度森田先生にご協力いただきましたケアマネジメント研修会において個別の事例の取り組みは居宅のみなさんにはお願いはできなかったんですけども、基本的な考え方があったり、各センターが取り組みました事例の報告につきましては居宅のケアマネージャーのみなさまにも聞いていただく機会を持つことができました。今年度はケアマネジメント自立に向けた取り組みに必要な研修を現在主任ケアマネージャーが中心になって企画をしております。そこにつきましては居宅のケアマネージャーのみなさまにもご参加をしていただいで少しずつ各センターが行う会議等のなかでも一緒に参画していただくように取り組んでいきたいと考えております。

(森下委員)

わたしも介護支援専門員さんたちの研修しているんですけどもやっぱり集合研修にも限界があっいかか OJT の中に踏み入れるかっていうようなところがとても大事なところで地域ケア会議もかなり開催されていますのでそこにどう入れ組んでいくのかっていうところをまた工夫していただければなというふうに思っています。

(伊与木委員)

協議されたと思いますので、協議を終了します。

(事務局)

その他：地域高齢者支援センター機能強化について説明

以上で協議会を終わらせていただきます。